

公益財団法人 全国商業高等学校協会主催・文部科学省後援

第55回 ビジネス文書実務検定試験 (27. 11. 22)

第1級

速度部門問題

(制限時間10分)

試験委員の指示があるまで、下の事項を読みなさい。

〔書式設定〕

- a. 1行の文字数を30字に設定すること。
- b. プロポーショナルフォントは使用しないこと。

〔注意事項〕

1. ヘッダーに左寄せで受験級、試験場校名、受験番号を入力すること。
2. 問題のとおり、すべて全角文字で入力すること。
3. 長音は必ず長音記号を用いること。
4. 入力したものの訂正や、適語の選択などの操作は、制限時間内に行うこと。
5. 問題は、文の区切りに句読点を用いているが、句点に代えてピリオドを、読点に代えてコンマを使用することができる。ただし、句点とピリオド、あるいは、読点とコンマを混用することはできない。混用した場合はエラーとする。
6. 時間が余っても、問題文を繰り返し入力しないこと。

第55回 ビジネス文書実務検定試験 (27. 11. 22)

第1級 速度部門問題 (制限時間10分)

近年、鉄道の高架下の活用が注目されている。鉄道各社と自治体	30
は、踏切事故や渋滞を解消するために、鉄道と道路の立体化を進め	60
てきた。その結果、高架下には多くの空間ができた。これまでは、	90
倉庫や駐車場として使われたり、空き地のまま放置されたりと、人	120
の通りが少ないために暗いイメージが強かった。しかし、最近是新	150
たな利用法がメディアで取り上げられ、話題となっている。	178
例えば、JR東日本は秋葉原駅近くの高架下の空間を利用して、	208
有名なお当地グルメを味わえる店舗をオープンさせた。店舗の形態	238
は、トレーラーやキッチンカーを並べたものである。現地に出向か	268
なくても、各地の料理が楽しめる利用者からは好評だ。店頭では	298
料理が生まれた地域の情報を発信し、その魅力をPRしている。こ	328
こを利用したことをきっかけに、現地へ足を運んでもらいたいとい	358
う思いもある。	366
また、高架下の環境は、自然の光が入りにくいために暗いという	396
デメリットがある。その環境の中で、蛍光灯やLEDの光を利用し	426
ながら、無農薬野菜を育てる植物工場を運営する鉄道会社がある。	456
室内での水耕栽培は、天候や季節の影響を受けにくいために、高い	486
品質の野菜を安定して供給することが可能だ。鉄道会社が作る安全	516
な野菜として、ブランド化を進めている。	536
都市部では土地が不足しているため、有効に活用するという点か	566
らも、さらに高架下の開発が進むと考えられる。駅に近い立地条件	596
を生かして、利便性が高く、地域に貢献する施設が作られることへ	626
の期待も大きい。保育所や行政センターなど、暮らしをサポートす	656
るようなサービスを望む声も多くある。これからこの空間がどのよ	686
うに活用されていくのか、その可能性に注目したい。	710